

《株式会社エフエム東京 第395回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 25 年 2 月 5 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 7 名(社外 7 名 社内 0 名)

◇出席委員(6名)

青 池 慎 一 委員長	横 森 美 奈 子 副委員長
渡 辺 貞 夫 委員	内 館 牧 子 委員
香 山 リカ 委員	西 田 善 太 委員

◇欠席委員(1名)

秋 元 康 委員

◇社側出席者(8名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役 編成制作局長
石 井 常務取締役
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
高 橋 編成制作局 編成制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(1名)

平 取締役 営業局長

【事務担当 延江放送番組審議会事務局長(代行)】

4. 議題: 番組試聴 (約 20分)

JFN 年末年始特別番組『今贈ろう。あの人へ、胸いっぱいありがとう!』
2012 年 12 月 31 日(月)23:00~25:00

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎2012年12月度 聴取率調査結果について

調査期間2012年12月10日(月)～16日(日)の聴取率調査結果が発表されました。今回はメインターゲットのM1F1、12～59歳個人平均とも数字を伸ばすことが出来ました。M1F1では在京全局中同率首位となり、中でも20代男女では単独の首位となりました。これは、2005年から10代リスナーとの心の交流を目的に取り組んできた「SCHOOL OF LOCK!」や、2010年から大学生へ知的なエールを贈る目的でスタートさせたFMフェスティバル「未来授業」などが浸透してきたひとつの側面だと見ております。



また、衆議院議員総選挙を前に12月10日(月)～16日(日)の期間限定でステーションネームを「TOHYO FM(投票エフエム)」に“改名”した

キャンペーンを行いました。人気アニメキャラ「鷹の爪団」をアイコンに起用し、「若者よ、投票所に行くじゃー」と呼びかけました。レーティング初日のワイド縦断10時間ワンデー企画を皮切りに、鷹の爪団との協力による様々なパブリシティ施策やWEBコンテンツを発信したことで反響・クチコミが拡大したことも寄与していると感じております。しかしながら、聴取率全般について、まだまだ十分な数字とは言い難く、今後も時代のリスナー心理に支持されていく番組のあり方を追求してまいります。



《TOHYO FM キャンペーンの影響》

- ・ステーションジングルを「TOHYO FM」に変更・配信→10日間で34,000DL超
- ・動画サイト「YouTube」にて鷹の爪団の「投票エフエム」キャンペーンアニメーション3万PV超
- ・都内に「選曲カー」出動

・「投票エフエム」に関する記事が、朝日新聞、東京新聞、日経産業新聞、その他MXテレビのニュース、ネットメディアで多数掲載！

◎「あ、安倍礼司」番組発イベント「あべフェス 2013」を実施

2013年1月12日(土)、13日(日)の2日間、横浜の日産グローバル本社ギャラリーにおきまして、日曜17時から放送のレギュラー番組「NISSAN あ、安倍礼司」の番組イベント『あべフェス』を開催しました。

「成人の日」直前の2日間にわたって開催されたこのイベントは、テーマに「大人になりたい!」を掲げ、メインリスナー層である団塊ジュニア世代を中心に、全国からのべ33,000人のリスナーに会場いただきました。この動員数は、会場である日産グローバル本社でのイベントの歴代記録を塗り替えることとなりました。(本社オープン記念イベントが18,000人。これまでの最高記録は、昨年実施した同番組イベントの23,800人でした。)

ラジオドラマの主人公「安倍礼司」が40歳を迎えることから、今回は目玉企画として「アラフォー達の2度目(20歳×2)の成人式」を実施。40代リスナーに振袖、羽織袴、タキシード姿で会場にいらしていただき、「大人になりたい!」というテーマのもと2度目の成人式に参加するよう呼びかけたところ、会場は晴れ着姿のリスナーであふれかえるほどの盛況となりました。

また、番組の公開収録をギャラリー内併設のホール(600名収容)で計2回実施、抽選で選ばれた1,200名のリスナーが参加し、辛島美登里や平原綾香のスペシャルLIVEで盛り上がりました。

グッズ販売も大好評で、番組オリジナルカレンダー、マグカップ、キーホルダー、文具セットなどが完売しております。

当番組のmixi内のコミュニティは18を数え、SNSを通してリスナー同士が強く結びつき、ラジオから発信された話題がソーシャルメディアで一気に拡がる「BUZZの発信源」となっており、動員にもつながっているものです。

実際に会場で実施したインタビューでは「昨年のイベントが本当に楽しかった・・・と話題になっていたので、今年は必ず参加してみようと思っていました」などの意見が多く聞かれました。



◎「未来授業」ビデオポッドキャストのダウンロードが好調

2012 年 11 月 23 日より公開している、「FM フェスティバル 2012 未来授業」のビデオポッドキャスト(福岡伸一、小山薫堂、養老孟司、北川智子、ロバート・キャンベル各氏が登壇)のダウンロード数が、速報値で 1 月 6 日時点までに 400 万 DL を越え、過去の回と比べても、非常に高い反響となっています。

また、過去実施の全3回の累計では、834 万 DL を数え、iTunes 1 月 6 日付ビデオポッドキャストのランキングで 1 位になりました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○安部礼司の番組発イベントは、局とリスナーが単なる送り手と受け手の関係性ではなく、番組に自らコミットする聴取者の姿が見える良例である。

○「あべフェス」のデザインは誰がやっているのか？

■番組スタッフによるものです。

○TOHYO FM については、ここまでやるかという印象だ。

■若者の投票率が低いことを危惧して、微力ながらやりたいと思った。

○多数メディアにも掲載され、面白い取り組みだったのではないか。選挙の度にやれば売りになるのではないか。

○圧倒的に若手を狙っているのがわかる。ロゴを見るだけで、リスナー側を向いている局なんだな、遊びがわかる会社だという印象を与えるので、良いキャンペーンだったと思う。鷹の爪団は、映画館でマナー注意をする役回りで知られたので、何かしろと命令するのに、ちょうどいいキャラクターだ。

○自分の出演番組を聴こうとしたリスナーから、TOKYO FM のリスナーサービスセンターに電話したが、担当の昼休みのため改めて電話をかけてほしいとの対応をされた、との手紙が寄せられた。

■ご指摘ありがとうございます。

議題2: 番組試聴 (約 20 分)

【番組名】 JFN 年末年始特別番組

『今贈ろう。あの人へ、胸いっぱいありがとう!』

パーソナリティ: ロバート・キャンベル、坂本美雨

ライブゲスト: 武部聡志

【放送日時】 2012 年 12 月 31 日(月) 23:00~25:00 *全国 38 局ネット

【番組概要】

東日本大震災の傷跡を残しながらも将来への希望を見出した2012年。その年の大晦日に感謝の気持ちと希望を胸に新年の扉を開けようということで、「がんばろう」ではなく、「ありがとう」をテーマにした特別番組を放送しました。

全国から寄せられた 1,500 件を超えるメッセージは、多くが家族への感謝であり、心の拠り所を、親、子供に求める傾向が顕著で、家族や地元、友だちを大切にするリスナーの姿が浮かび上がりました。

また、ロンドン五輪で活躍した吉田沙保里選手(女子レスリング金メダリスト)、村田諒太選手(男子ボクシング金メダリスト)、大儀見優希選手(女子サッカー銀メダリスト)、ミス・インターナショナルグランプリ吉松育美さん、「ハーバード白熱日本史教室」の北川智子さん、デビュー40周年松任谷由実さんなど、随所に2012年の顔の「ありがとうメッセージ」も紹介しました。

新年は「ニューイヤーライブ」。ロンドン、アビーロードスタジオでビートルズが使用したベヒシュタインのピアノをスタジオに持ち込み、武部聡志の演奏と坂本美雨の歌でビートルズライブを届けました。このピアノの音色が電波に乗って全国に届けられるのは初めてのことで、各種メディアでも紹介されました。このピアノは1年間限定で TOKYO FM が借り受けており、今後も番組やイベント等、様々な形で活用していく予定です。

ロバート・キャンベル

東京大学大学院総合文化研究科教授、日本文学者 ニューヨーク市出身
研究分野・主題は日本文学、主に近世から明治の漢文学およびそれに関連する芸術・思想・メディアなど。テレビ、ラジオ局で日本文化に関連した情報番組、クイズ番組、教養番組への出演多数。講演活動、雑誌出演など他メディアでも多種多様の活動を行う。



坂本美雨

ミュージシャン。父、坂本龍一、母・矢野顕子という音楽一家に育つ。
TOKYO FM/JFN のフルネット番組「ディア・フレンズ」のパーソナリティとしてもおなじみで、透明感とやさしさのある語り口が特徴。

武部聡志

プロデューサー／アレンジャー／キーボーディスト

国立音楽大学在学中よりキーボーディスト・アレンジャーとして数多くのアーティストを手掛ける。

1983 年より松任谷由実コンサートツアーの音楽監督を担当。1990 年より本格的にプロデューサーとしての活動を始め、一青窈、今井美樹、ゆず、平井堅、JUJU のプロデュース、CX 系ドラマ「BEACH BOYS」、「西遊記」etc.の音楽担当、CX 系「僕らの音楽～OUR MUSIC～」の音楽監督等、多岐にわたり活躍している。



○番組の雰囲気がきちんと伝わるダイジェストで、いい番組だと思った。

正直、ベタなタイトルだという印象だったが、村田諒太選手や被災地の方の肉声を聞いて、「ありがとう」を声にして人に聞かせることが、前進する力になるのだと思った。特に、被災地の方の“ようやく”落ち着いてきましたの“ようやく”が重く、素直に聞いた。最近のテレビドラマで、出会いのシーンが 3.11 の帰宅難民のシーンだったものがあり、驚いたが批判が全くなかったという話があり、日本は 2 年経って震災の記憶を悪い意味でなく浄化できるんだなと思っている。大きな流れの中で、「ありがとう」という言葉がしっかり即していると感じた。

○震災から2年近くが経ち、復興の問題もありながら五輪も行われた年の年末に、普通の年末特番をやるのは不自然、その一方で被災地一色、悲惨な内容一辺倒になるのも違和感がありえる中で、構成に苦慮したと思う。そのひとつの答えとして、被災地や復興活動を直接的にしている人をパーソナリティに立てるのではなく、アメリカの出身で日本文化を研究するキャンベルさん、長く海外に住んでいた坂本美雨さんというコスモポリタンの、日本をよく知っていながら、日本を俯瞰できるこの二人を立てたのが、絶妙なキャスティングだったのではないかと。誠実だが決して“お涙ちょうだい”にはならず、少し距離を置きながら進行しているのがよかった。

○結構退屈だった。年末年始は騒々しい番組が多いので、イージーリスニングとして聴く分にはいいだろうが、どの年代のどんな人をターゲットにしているのかがわからなかった。「ありがとう」の種類もたくさんあるはずだが、公の場で家族への感謝を2時間も聞かされたらたまらない。もっといろいろな角度の「ありがとう」があったはず。制作者はどこかで外さないと、想像つく内容で終わってしまう。

○タイトルから、面映い番組になるのではないかと不安があった。番組の趣旨としては、年末なので良いが、2 時間というのは長いと思う。「ありがとう」を言っている間の BGM

はいらない。もっと大事に「ありがとう」の言葉を聴きたかった。

○素直に聞けた。意外なキャラクターの設定がよかった。ロバート・キャンベルさんは知的で何でもわかりやすく話してくれ、アメリカ人。坂本美雨さんは癒し系の語りの帰国子女。それに主演となっていたピアノ。違和感があるものがうまく MIX されて、退屈しなかった。

とりあげている内容は震災やオリンピックのリアルなインタビューなのだが、ことさら余計な感情をあおることなく、聴いている方にはうまくくるんでくれる感じがよかった。

○他のメディアにないラジオの良さが良く出た番組だと思う。年末年始を静かに過ごすこんな音空間があってもいいかなと素直に感じた。「ありがとう」というメッセージは、たいてい平凡なことになってしまうので、ある意味難しく、インタビューされた方は困ったのではないか。一般的な方からの「ありがとう」メッセージは、メール中心だったが、もう少し市井の人たちの“胸いっぱい”いろんな「ありがとう」を聴いてみたかった。興味深かったのは、三陸沖の養分がアムール川とつながっているという話だった。世界が結びついている、地球で住んでいる人同士の関係性を感じた。

5. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「JOG LIS RUN GIRLS SUNDAY」
3月3日(日)6:00～7:30放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会を、3月5日(火)に開催することを決めた。